

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ローランドディー・ジー株式会社 都田事業所新社屋	階数	地上3F
建設地	静岡県浜松市北区新都田一丁目10-1	構造	RC造
用途地域	工業専用地域、法第22条区域	平均居住人員	500人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,936時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2022年8月4日
敷地面積	27,858 m ²	作成者	安部 信汰
建築面積	2,617 m ²	確認日	2022年8月9日
延床面積	7,494 m ²	確認者	三橋 啓史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>広大な工場敷地内における事務所棟の新築であり、敷地内においては緑を積極的に取り入れ、隣棟間を大きく取ることで、圧迫感を与えないよう敷地(場内)環境に配慮している。ハイサイドライトからの自然エネルギーを高い外皮性能により取り入れることで、労働環境下における憩いの場としての居心地の良さを配慮しながら長期に維持・利用できる建物として計画している。</p>		
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>音環境に関わる吸音性能の高い仕上材を使用しており、空気質環境の取組みとしては、別室の喫煙所を設け、労働環境下における室内空間の居心地の良さについて配慮している。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>天井高を高くすることにより室内空間にゆとりがあり、外壁、内装仕上げ材共に、耐用年数の長い部材を使用している。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>場内には緑を積極的に取り入れ、外部テラスを建物に隣接して設けることによって開放的な内部空間に繋がりが、地域環境にも配慮している。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>建物外皮への熱負荷抑制において高い水準を確保し、ハイサイドライトを設置して自然エネルギーの利用も積極的に取り入れている。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>非再生資源の使用量削減として部材の再利用可能性向上に取り組んでおり、環境への配慮としては、ノンフロンかつ地球温暖化係数の低い発泡断熱材を使用している。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>交通負荷抑制として平場駐車場と駐輪場を適切に配置し、従業員用駐車場と来客用駐車場を明確に区別し十分な駐車スペースを確保している。場内への出入り口の位置や形状も適切に配置して、敷地外への影響を配慮している。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ローランドディー・ジー株式会社	階数	地上3F
建設地	静岡県浜松市北区新都田一丁目10	構造	RC造
用途地域	工業専用地域、法第22条区域	平均居住人員	500人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,936時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2022年8月4日
敷地面積	27,858 m ²	作成者	安部 信汰
建築面積	2,617 m ²	確認日	2022年8月9日
延床面積	7,494 m ²	確認者	三橋 啓史



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 66%
③上記+②以外の 66%
④上記+ 66%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.2
4(教育)	2.2
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	1.9
7(エネルギー)	2.1
8(経済・雇用)	2.2
9(イノベーション)	1.8
11(都市)	1.8
12(生産・消費)	2.3
13(気候変動)	2.1
15(陸上資源)	1.4
17(実施手段)	2.2

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>広大な工場敷地内における事務所棟の新築であり、敷地内においては緑を積極的に取り入れ、隣棟間を大きく取ることで圧迫感を与えないよう地域(場内)環境に配慮している。ハイサイドライトからの自然エネルギーを高い外皮性能により取り入れることで、労働環境下における居心地の良さを配慮しながら長期に維持・利用できる建物として計画している。</p>		
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>音環境に関わる吸音性能の高い仕上材を使用しており、空気環境の取組みとしては、別室の喫煙所を設け、労働環境下における室内空間の居心地の良さについて配慮している。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>天井高を高くすることにより室内空間にゆとりがあり、外壁、内装仕上げ材共に、耐用年数の長い部材を使用している。</p>	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <p>場内には緑を積極的に取り入れ、外部テラスを建物に隣接して設けることによって開放的な内部空間に繋がりが、地域環境にも配慮している。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>建物外皮への熱負荷抑制において高い水準を確保し、ハイサイドライトを設置して自然エネルギーの利用も積極的に取り入れている。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>非再生資源の使用量削減として部材の再利用可能性向上に取り組んでおり、環境への配慮としては、ノンフロンかつ地球温暖化係数の低い発泡断熱材を使用している。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>交通負荷抑制として平場駐車場と駐輪場を適切に配置し、従業員用駐車場と来客用駐車場を明確に区別し十分な駐車スペースを確保している。場内への出入り口の位置や形状も適切に配置して、敷地外への影響を配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	ローランド ディー・ジー株式会社 都田事業所 新社屋	BEE	1.8	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6	/5		ふつつ		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.5	/5		ふつつ		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい	ふつつ	がんばろう
			4 点以上	3 点以上	3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.6	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ③ブラインド及び庇の設置 ④外壁:鉄筋コンクリート耐用年数65年 ④壁:PB地下ビニールクロス:20年、天井:岩綿吸音板:30年 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦建物の外皮性能 BPI 非住宅:0.74 ⑧ハイサイドライトの設置 ⑨[BEE][BEIm]=0.53 ⑩建物全体のエネルギー消費量の目標値が計画され、提示している ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪省水型機器を用いている ⑫断熱材②ビニル床タイル ⑬断熱材にはOPD:0かつGWP:1を使用している ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭自動計算(スコア4.3) 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	2.9
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高:4.200 ⑲壁長さ比率:0.09 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.3	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/③まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 ② 2 ③ 3 3.2 ④ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	② 生物環境の保全と創出 ③ まちなみ景観への配慮 ④ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		